

第3期 平成28年度 新宿区多文化共生まちづくり会議 第1回暮らし部会 議事概要

日 時 平成29年1月30日（月）10:00～12:00

場 所 区役所本庁舎6F 第4委員会室

出席委員 川村委員、郭委員、長谷部委員、小野委員、余委員、鈴木委員、バーバー委員、金（朋）委員、梶村委員、井上委員、ファトマワティ委員、森田委員 12名

欠席委員 丁委員、センブ委員、安藤委員、本多委員 4名

1 開会

2 部会の運営について

全体会での検討の結果、「住宅」と「暮らし」の2部会を設置し、委員はどちらかの部会に所属し、議論することとなった。なお「多文化共生まちづくり会議条例施行規則第4条4項に基づき、委員は自所属以外の部会へオブザーバーとして参加、発言できることとした。

3 部会長の選出

会長に、川村委員が選出された。

4 暮らしに関する課題の整理

- ・多文化共生実態調査で日本人回答者の60%、外国人回答者の70%が日本人と外国人の間のトラブル経験は「特にない」と回答しているが、日々接していればトラブル経験がないことはないはず。「特にない」は接点自体がないことの表れではないだろうか。トラブルは何か問う質問には「ごみ」という回答が第1位になっていて、トラブルが起きたときでしか接点が持てていないように感じる。
- ・なぜそうしたルールがあるのか、外国人に趣旨が伝わっていないため、ただ細かい印象になってしまっている。ルールをどうやって守ってもらうかより、ルールを伝え、文化や習慣を理解し合うために日本人と外国人が接点を持つ機会をどうつくるか議論したい。
- ・外国人が相談すると、日本人から「ルールだから」「決まりだから」と諭される場合が多いと聞く。日本社会自体が、説明不足な傾向がある。
- ・街中が賑やかな国から来た人にとっては、日本は静かすぎる。足音も、ごみを捨てる時も、料理をするとき（食材を叩いたり潰したり）もうるさい、匂いがすると言われてどうしたら良いのかと戸惑う。文化を理解しあえる場が必要である。
- ・日本では日本のルールを守ってもらうのは当然のことだが、日本ではルール違反なこと

でも、母国では普通のこととして外国人は悪意なくやっつけてしまっている場合がある。日本人が外国のルールを知る機会があると相互理解に繋がるのではないか。

- ・ごみ、騒音、自転車問題は、ルールを知っていたら直すこともある。共通するのはコミュニケーションがとれていないことではないだろうか。
- ・隣人とのコミュニケーション不足は国籍関係なく、地域が抱える課題である。それが外国人特有の問題と置き換えられているように感じる。コミュニケーションの場づくりが問題解決の糸口になるのではないか。
- ・ルールは暮らしに欠かせない部分ではあるが、コミュニケーションで相互理解を促し、共生につなげる議論をしたい。

5 その他

第2回会議では、委員及び事務局（区）それぞれが過去に実施したコミュニケーションを促進した成功事例を持ち寄り、共有することとなった。

事務局から次回の会議について説明があった。

6 閉会